



広島大学

文部科学省科学技術人材育成費補助事業
令和5年度ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（調査分析）



島根大学
SHIMANE UNIVERSITY

広島大学・島根大学共同事業

「地方大学における理工系の女性研究者が
働きやすく働きがいのある研究環境づくりのための調査分析」

事業概要報告

広島大学副学長（ダイバーシティ担当）石田 洋子

島根大学副学長（ダイバーシティ推進担当）河野 美江

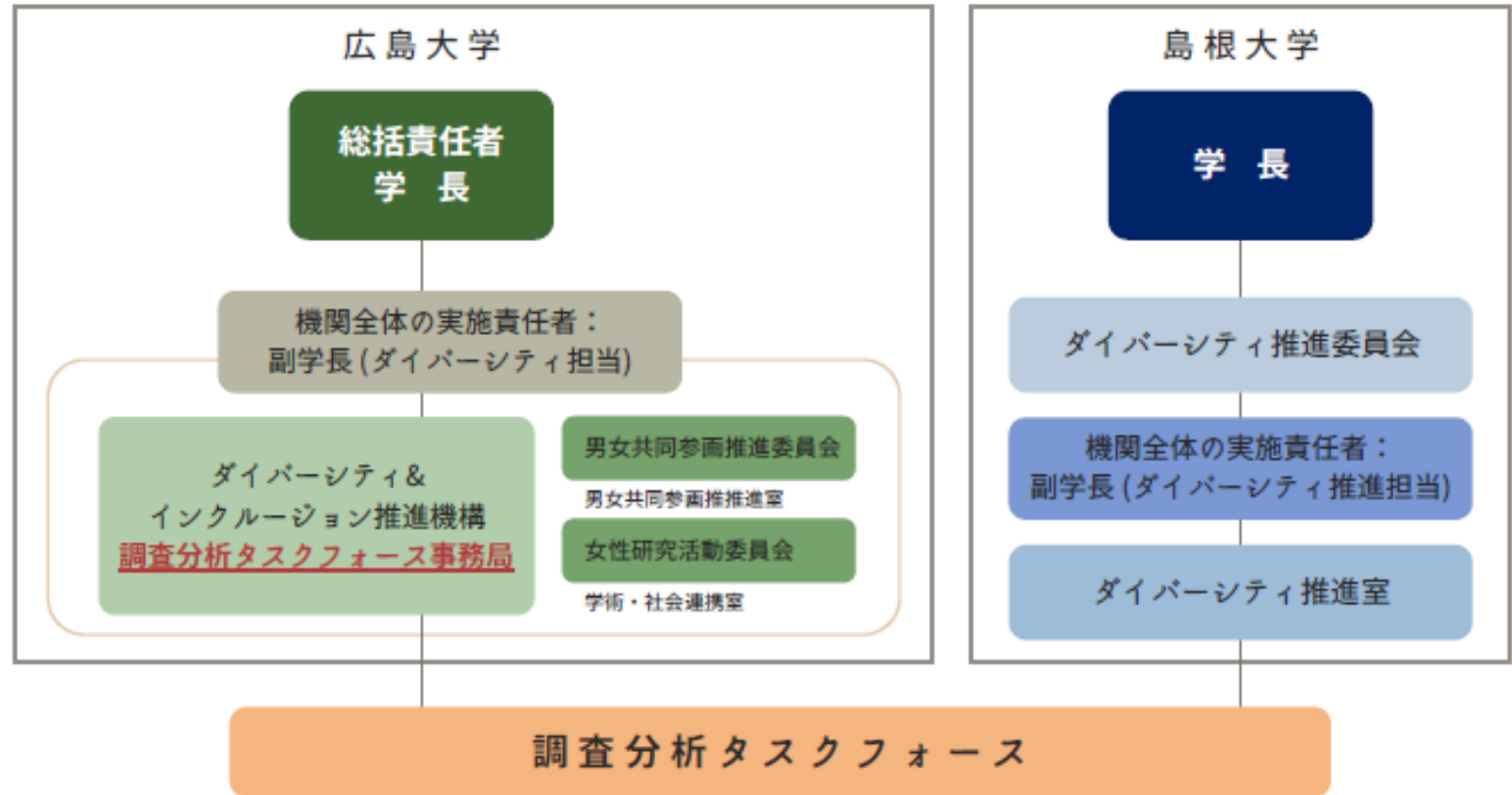


1. 調査分析の目的

本事業では、海外の大学及び研究機関における優れた取組について、多様性(Diversity)、公正さ(Equity)、包摂性(Inclusion)を重視した研究環境づくりの現状と課題を調査分析し、日本での実装可能性を検討の上、「**地方大学における理工系女性研究者が働きやすく働きがいのある研究環境づくりのための政策提言書(仮)**」を策定する。

その政策提言書をもって構造改革につなげ、日本におけるダイバーシティ研究環境の実現を目指す。

2. 実施体制



広島大学と島根大学では、全学的な実施協力体制の下、「調査分析タスクフォース」を組織して本事業を実施しています。

3. 調査分析 の手順

ステップ1: 令和5年9月～12月
日本及び対象国の政策及び取組に関する
事前調査分析

ステップ2: 令和6年1月～2月
第1回海外調査
(米国、スウェーデン)

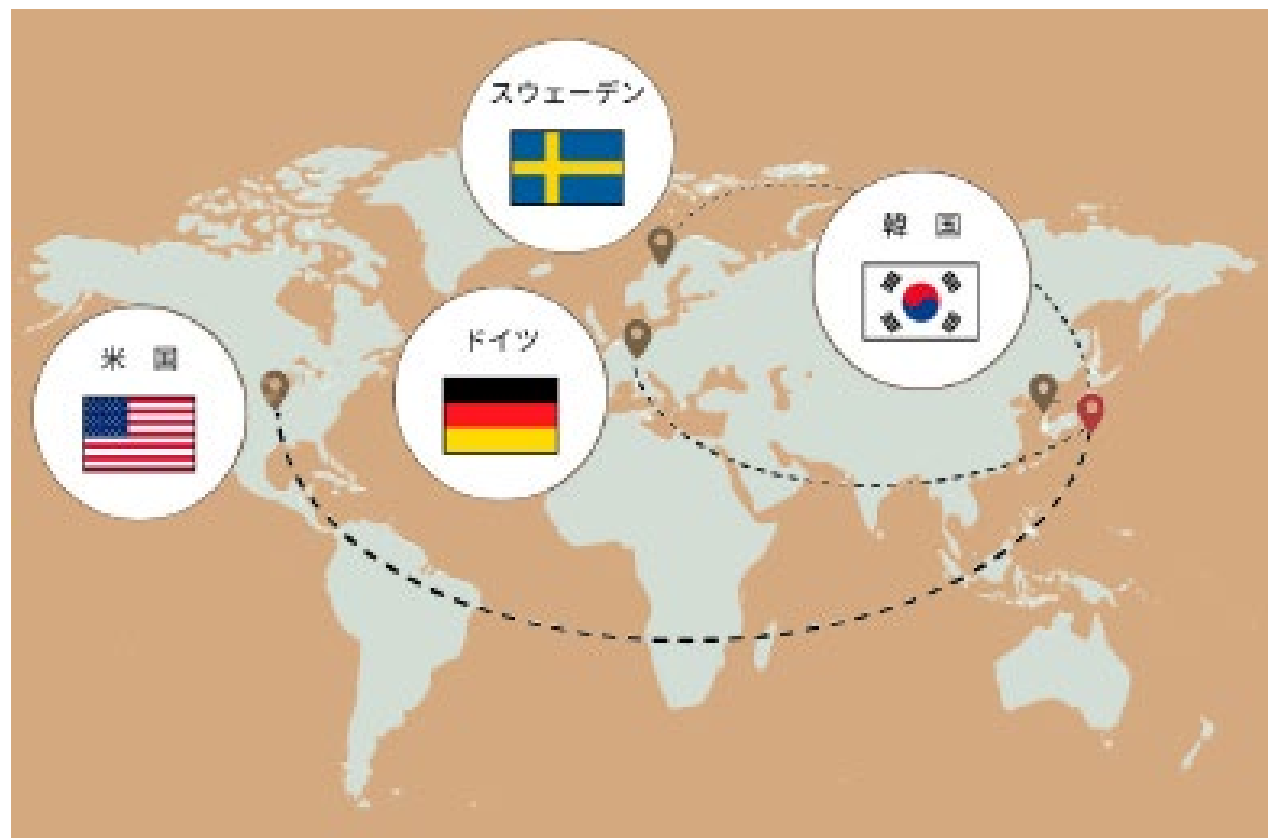
ステップ3: 令和6年3月～4月
海外調査**収集データ分析**と
情報共有フォーラム開催

ステップ4: 令和6年5月～7月
第2回海外調査
(ドイツ、韓国、米国)

ステップ5: 令和6年8月～令和7年3月
調査結果取り纏め、**提言書作成**、
情報共有フォーラムと**最終シンポジウム**開催

4. 調査対象国

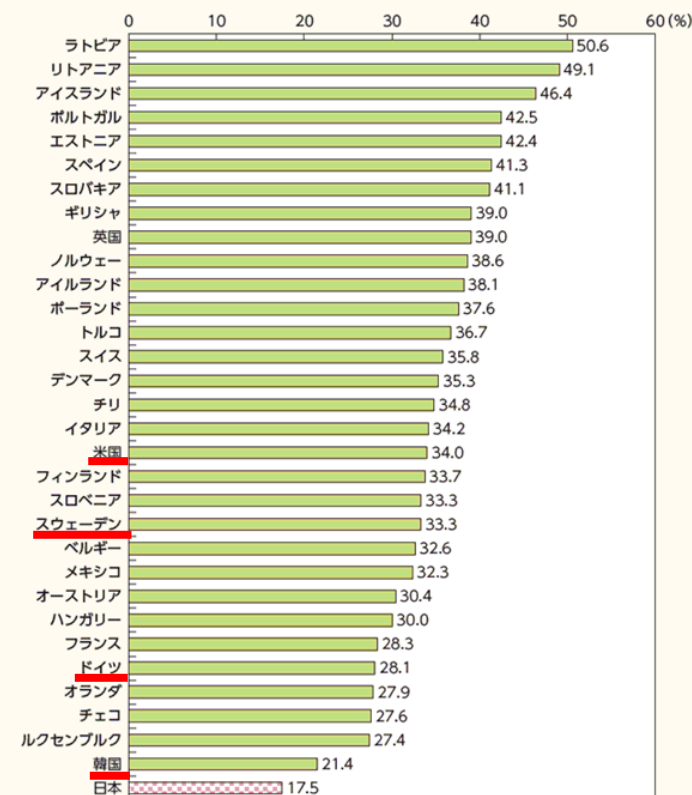
本調査では、米国、スウェーデン、ドイツ、韓国の4か国を訪問し、優れた取組についてデータ収集・分析を行う。



研究者に占める女性の割合の国際比較

4-5図 研究者に占める女性の割合（国際比較）

○日本の研究者に占める女性割合は17.5%で、OECD諸国の中で群を抜いて低い。
○ラトビア、リトアニアでは、女性の研究者割合が50%前後である。



(備考) 1. 総務省「科学技術研究調査」(令和3(2021)年)、OECD “Main Science and Technology Indicators”、米国立科学財団(National Science Foundation: NSF) “Science and Engineering Indicators”より作成。
2. 日本の数値は、令和3(2021)年3月31日現在の値。アイスランド、フランスは平成29(2017)年値。チェコ、韓国、メキシコ、ポルトガル、スロバキア、トルコは令和2(2020)年値。その他の国は、令和元(2019)年値。推定値及び暫定値を含む。
3. 米国の数値は、雇用されている科学者(Scientists)における女性の割合(人文科学の一部及び社会科学を含む)。技術者(Engineers)を含んだ場合、全体に占める女性科学者・技術者割合は29.4%。
4. 数値は令和4(2022)年4月15日時点。



5. 事前調査分析

- (1) 広島大学と島根大学における取組レビュー
- (2) 対象国に関する事前情報収集
- (3) 海外調査準備
 - ・ 2023年度訪問大学候補の選定及び訪問依頼
 - ・ 質問票、訪問スケジュール等の作成
- (4) 国内外の論文等レビュー
- (5) 事前分析取り纏め
- (6) 地方大学の定義検討
 - ・ 大都市圏に位置しない（人口集積、住環境、就職機会等）
 - ・ 大学が比較的小規模（予算、学生数、学部・研究科の範囲等）



6. 両大学の現状

令和5年5月1日現在

広島大学：本務教員の職名別女性比率

職名	合計	男性	女性	女性比率
教授	566人	512人	54人	9.5%
准教授	491人	386人	105人	21.4%
講師	94人	73人	21人	22.3%
助教	563人	404人	159人	28.2%
合計（本務教員数）	1,714人	1,375人	339人	19.8%

島根大学：本務教員の職名別女性比率

職名	合計	男性	女性	女性比率
教授	235人	203人	32人	13.6%
准教授	184人	153人	31人	16.8%
講師	107人	72人	35人	22.3%
助教	216人	145人	71人	32.9%
合計（本務教員数）	742人	573人	169人	22.8%



7. 第1回海外調査：米国

東海岸

- 1) 訪問者：島根大学・香川
- 2) 訪問期間：
 - a. 2024年2月5日～26日
 - b. 2024年3月6日～10日
- 3) 訪問大学：
 - a. ヴァージニアコモンウェルス大学
 - b. コロンバス州立大学
- 4) 質問事項：
 - ・ダイバーシティ推進モデル大学への計画と進捗状況
 - ・ダイバーシティ推進に関して同じ経験を持つグループの形成
 - ・STEM分野により多くの女性学生に入学してもらうための方策は何か
 - ・大学に定着するように地方自治体や民間企業と何か協力しているか

西海岸

- 1) 訪問者：広島大学・渡邊
- 2) 訪問期間：
2024年2月11日～25日
- 3) 訪問大学：
アリゾナ州立大学
テキサス大学ダラス校
- 4) 質問事項：
 - ・ADVANCEプログラムによる支援内容、成果と課題
 - ・女性研究者支援制度の立ち上げ、プロセス、実施体制、成果の維持等
 - ・女性上位職割合を増やすために最も効果的だったイニシアティブは
 - ・STEM分野により多くの女性学生に入学してもらうための方策は何か
 - ・大学に定着するように地方自治体や民間企業と何か協力しているか



8. 第1回海外調査：スウェーデン

- 1) 訪問者：
広島大学・石田、（塩満）
島根大学・丸山
- 2) 訪問期間：
2024年2月2日～16日
- 3) 訪問大学：
リンシューピン大学、
チャルマース工科大学、
ヨーテポリ大学、ルンド大学
- 4) 質問事項：
 - ・女性上位職割合を増やすために最も効果的だったイニシアティブは
 - ・女性研究者支援プログラムを実施する上で男性の理解をどう得たか
 - ・女性研究者支援プログラムを実施する上での課題にどう対応したか
 - ・STEM分野により多くの女性学生に入学してもらうための方策は何か
 - ・大学に定着するように地方自治体や民間企業と何か協力しているか

例：ルンド大学訪問（2月9日）

9 am - 11 am - Lund university, central

- Equal Opportunities Plan for Lund University
(Coffee break)

- Recruitment and bias work

11 am - 12 am - Faculty of Science

- Systematic preventive work against discrimination (SFAD)

(Lunch)

1 pm - 2:30 pm - Faculty of Engineering LTH

- Gender Equality, Equal Opportunities and Diversity work at the departmental level

- The Lise Meitner professorship
(Coffee break)

3 pm - 4:00 pm

- Possible visit to Science Center or other activity



9. 情報共有フォーラム I の開催

	広島大学	島根大学
目的	本事業の概要とこれまでの進捗を報告し、大学内はもちろん、地域の教育機関、自治体、民間企業と共有し、フィードバックを得る	
	広島周辺地域の大学や小中高等学校、自治体、民間企業と共有する	山陰地域で女性研究者の活躍支援の方策を一緒に考える
日時	2024年3月13日(水) 13時から17時	2024年3月19日(火) 14時半から17時
場所	広島コンベンションホール (広島市)(基本は対面)	島根大学大学ホール (松江市)(オンライン配信)
主な構成	基調講演1:「米国高等教育におけるジェンダー公正性に関する教訓」モニカ・ゴーン教授(アリゾナ州立大学)	海外における女性研究者支援に関する報告(調査分析TF担当者)
	基調講演2:「女性研究者支援の振り返りと展望」バリー・ボーズマン名誉教授(アリゾナ州立大学)	パネルディスカッション「地方大学における女性研究者支援の現状と課題」(大学・高専関係者)
	ディスカッションセッション「海外の取組に学ぶ」 (海外調査報告を含む)	



10. 来年度の事業計画

- (1) 調査分析タスクフォース連絡会議を開催
- (2) 日本及び対象国の施策及び取組等に関する事前調査
- (3) 第2回海外調査（ドイツ、韓国、米国）
- (4) 帰国後のデータ分析
- (5) 情報共有フォーラムⅡの開催
- (6) 政策提言書の作成
- (7) 最終シンポジウムの開催



11. 期待される成果とインパクト

- (1) 海外の優れた取組について、実施スタッフから収集した**現場レベルの生きた情報**が整理・共有される
- (2) 「地方大学における理工系女性研究者が働きやすく働きがいのある研究環境づくりのための**政策提言書（仮）**」が作成される
- (3) フォーラムやシンポジウムを通して教育・研究機関、自治体、企業、メディアに広く情報発信し、**地域社会の意識啓発**が進む
- (4) 政策提言書を実践することにより、**連携機関における女性研究者の採用割合と上位職割合の増加**が期待される
- (5) 「第6期科学技術・イノベーション基本計画」
「第5次男女共同参画基本計画」の目標達成へ向けて、**地方大学における体制強化**が推進される

「地方大学における理工系女性研究者が働きやすく働きがいのある研究環境づくりのための政策提言書」(案)

第1章 本申請事業の背景、目的、方法

第2章 地方大学における理工系女性研究者が働きやすく働きがいのある研究環境づくりの意義

第3章 米国、スウェーデン、ドイツ、韓国における取組の成果と課題

第4章 提言

提言1 女性研究者がアクセスしやすく柔軟な公募方法と雇用条件

提言2 公正さを重視した評価制度のあり方

提言3 女性研究者に対するメンタリング及びネットワークづくり支援

提言4 提言1～3実装のための地域との連携のあり方

提言5 提言1～3実装のための無意識の偏見への対応方法

提言6 提言1～3実装のためのDX活用方法